

鉄鋼概況

復旧進む鉄鋼企業

鉄鋼エコノミスト 左近司 忠政

東日本大震災で被災した鉄鋼企業は、その後懸命な復旧努力を行い4月末にはほとんどの企業・事業所で操業及び営業活動を再開している。4月末に高炉大手4社の2011年3月期の連結業績が発表され、大震災に起因する特別損失として新日鉄は釜石関連で237億円、JFEホールディングスがグループ企業のJFE条鋼・東北スチール関連で283億円、住金が鹿島関連で620億円を計上した。3月の世界粗鋼生産量(64カ国)は、前年同月比7.0%増の1億2,934万トンとなり、18カ月連続で前年水準を上回った。世界鉄鋼協会が4月に発表した2012年までの短期予測によると、2012年の世界鋼材見掛け消費量は過去最高に達すると見通している。

~~~~~

### ◆ 3月粗鋼生産、17カ月ぶり前年比減

鉄鋼連盟が発表した2月末の普通鋼鋼材国内在庫(メーカー・問屋段階)は、前月末比4万7,000トン、0.9%減の513万トンとなり、3カ月ぶりに減少した。しかし在庫率は132.4%と前月に比べわずかに上昇し、依然として高い水準が続いている。一方、2月末の普通鋼鋼材の流通在庫は、鉄鋼連盟が行った全国市中鋼材数量調査によると、前月末比0.8%増と微増の264万4,000トンとなった。2月の販売量は2.2%増の254万6,000トンとなったために、月末の在庫率は1.5ポイント減の103.9%となり、100%台が3カ月続いた。3月末はメーカー・問屋、流通在庫ともに、東日本大震災の影響で製造停止が長引いている自動車、電機など製造業向け品種の在庫が積み上がる見通しとなっている。

主要鉄鋼製品の在庫状況をみると、2月末の薄板3品(熱延・冷延・表面処理鋼板)の国内在庫(メーカー・問屋・コイルセンターの合計)は前月末比3.4%、13万2,000トン減の374万2,000トンと3カ月ぶりに減少した。例年1月末から2月末にかけて、過去10年平均では9万トン程度減少しているが、それを上回る減少幅となった。しかし、大震災の影響で需要家が操業を停止したことで、メーカーや流通業者の足元の在庫が膨らみ、3月末の薄板在庫は大幅増加が避けられないと見られている。主要建材製品であるH形鋼の3月末の全国流通在庫は新日鉄系建材特約店組織である「ときわ会」の調査によると、前月末比8,800トン、5%増の18万3,400トンとなった。在庫増加は3カ月連続で、在庫量は2010年8月以来、7カ月ぶりに18万トン台となった。前月から反転して入出庫ともに増加したが、年度末のメーカー出荷の集中によって、入庫が出庫を上回り、在庫増となった。

鉄鋼連盟が発表した3月の国内粗鋼生産量は前年同月比2.7%減の909万2,000トンにとどまり、17カ月ぶりに前年同月実績を下回った。3月の1日当たりの生産量は29万3,300トン(年率換算1億700万トン)で2月に比して約2万6,000トン減少した。大震災で高炉メーカーの製鉄所や電炉メーカーの工場が被災したことで、約80万トンの減産となった計算となる。3月の生産実績によって、2010年度の国内粗鋼生産量は、前年度比約1,430

万トン（14.8%増）増の1億1,077万トンと3年ぶりに前年実績を上回った。大震災の影響で3月は減産となったが、年度トータルでは金融危機の影響を受けた2009年度に比べ大幅に増加した。また、過去最高を記録した2007年度実績の91%レベルまで回復した。

財務省が発表した3月の鉄鋼貿易統計によると、輸出（全鉄鋼）は前年同月比2.3%減の408万1,000トンとなり、前年比割れとなったものの、前年3月に記録した過去最高の418万トンに次ぐ高水準だった。輸入は同29.3%増の63万9,000トンと15カ月連続で前年を上回った。3月の輸出は決算期末のため数量が増えるという季節要因に加えて、海外市況の急伸による成約増があり高水準となった。しかし、大震災に伴い配船計画に支障が若干生じたことなどから、過去最高記録を果たし得なかった。

国別輸出では韓国・台湾などアジアNIE's諸国向けが143万6,000トン（同17.3%減）と前年割れとなったが、中国向けが69万トン（同4.0%増）と6カ月連続で増加、ASEAN向けは101万2,000トン（同1.0%減）だった。アジア以外では米国向けが24万1,000トン（同2.2倍）と大幅に増加し、中東向けが16万2,000トン（同10.2%減）、EU向けが7万トン（同96.2%増）、ロシア向けが1万3,000トン（同29.7%減）だった。この結果、2010年度の貿易統計は全鉄鋼輸出は前年比11.9%増の4,325万7,000トンで過去最高（2009年度が3,867万トン）、全鉄鋼輸入は同50.2%増の727万1,000トンと前年の低迷の反動もあって、4年ぶりの増加となった。

#### ◆被災した鉄鋼企業の復旧状況

3月11日に発生した東日本大震災で被災した鉄鋼企業は、その後懸命な復旧努力を行い、4月末にはほとんどの企業・事業所で操業及び営業活動を再開している。最大の被害を受けた住友金属の鹿島製鉄所においては、第1高炉は3月26日から、第3高炉は3月20日から送風を再開した。圧延工場の熱源となっているコークスガスを供給している2基のコークス炉のうち、第2コークス炉が3月29日に再稼働し、厚板工場の熱間圧延を再開した。第1コークス炉は4月はじめに操業を再開し、4月12日には熱延鋼板工場が、次いで大型形鋼工場が稼働し、4月25日には冷延、表面処理工場など全工場が操業を再開した。しかし、港湾設備では原料荷揚げ用のアンローダーが3基とも被害を受け、うち1基は全面更新が必要となっており、非連続の設備で代替荷役を続けている。住友金属では、所全体が震災前の状態に戻るには「あと1年半程度かかる」との見通しを明らかにした。

新日鉄の釜石製鉄所では、大震災以来生産を休止していたが、4月13日に需要家向けの線材生産を再開した。在庫ビレットを圧延したもので、約1カ月ぶりの生産再開となる。同所は君津のビレットで線材圧延を行っているが、自社の港湾設備の復旧の目処が立たず、4月22日に君津よりのビレットは公共施設の釜石港で受け入れた。電炉メーカーでも設備被害の軽微な所から操業が順次に再開されている。関東メーカーは震災による被害が軽微だったこともあり、約2週間で全て操業再開にこぎつけた。東北地区では、東京製鉄・八戸では圧延は3月29日に、製鋼は4月2日に再開した。JFE条鋼・仙台では、特殊鋼を主体に棒鋼・線材を月間約8万トンを製造していたが、大震災による設備の損傷に加えて、東北電力の送電網の復旧状況もあり、未だ操業の目処は立っていない。

なお、4月末に高炉大手4社の2011年3月期の連結業績（詳細は来月に紹介）が発表されたが、大震災に起因する特別損失として、新日鉄は釜石関連で237億円、JFEホールディングスがグループ企業のJFE条鋼・東北スチール関連で283億円、住金が鹿島関連で620億円を計上している。

## ◆ 3月世界粗鋼生産，18カ月連続増

世界鉄鋼協会（WSA）がまとめた3月の世界粗鋼生産量（64カ国）は、前年同月比7.0%増の1億2,934万トンとなり、18カ月連続で前年水準を上回った。国・地域別にみると、アジアでは中国が同9.0%、インドが同8.6%、韓国が14.4%、台湾が12.8%と大幅増になったのに対して、日本は東日本大震災の影響もあり、同2.7%減と前年水準を下回った。その他では、EUが同4.0%増、ロシアが同7.4%増、ブラジルが同6.8%増となったのに対して、米国は同0.2%減となった。1～3月の累計生産量は、3億7,152万トンと前年の同じ時期を8.8%上回っている。世界的な金融危機の影響を受けた2009年1～3月期との比較では40.3%増となっている。

## ◆ 2012年鋼材消費，14億トン突破——WSA見通し

世界鉄鋼協会は、4月に世界の鋼材見掛け消費量（生産＋輸入－輸出）の2012年までの短期予測を発表した。それによると、2012年の消費量は14億4千万トンと過去最高に達すると見通している（当予測は東日本大震災直前に策定したもので、震災の影響は織り込んでいない）。同協会は、経済成長が著しい新興国で消費が拡大し、世界全体の消費を押し上げると見ている。

表1 世界鋼材見掛け消費見通し

|                   | 鋼材消費           |         |         | 前年対比 |      |      |
|-------------------|----------------|---------|---------|------|------|------|
|                   | 2010           | 2011予想  | 2012予想  | 2010 | 2011 | 2012 |
|                   | (単位:100万トン, %) |         |         |      |      |      |
| E U - 2 7 カ 国     | 144.8          | 151.8   | 157.5   | 21.2 | 4.9  | 3.7  |
| そ の 他 ヨ ー ロ ッ パ   | 29.6           | 32.8    | 35.2    | 23.8 | 11.0 | 7.3  |
| C I S             | 48.5           | 52.1    | 56.7    | 34.3 | 7.5  | 8.9  |
| N A F T A         | 110.3          | 122.3   | 130.0   | 33.0 | 10.9 | 6.3  |
| 中 南 米             | 45.8           | 48.8    | 52.8    | 36.4 | 6.6  | 8.3  |
| ア フ リ カ           | 25.9           | 25.1    | 27.4    | △3.6 | △3.1 | 9.1  |
| 中 東               | 45.3           | 46.5    | 49.9    | 7.2  | 2.6  | 7.3  |
| ア ジ ア ・ オ セ ア ニ ア | 833.6          | 879.9   | 931.1   | 8.4  | 5.5  | 5.8  |
| 世 界 計             | 1,283.6        | 1,359.2 | 1,440.6 | 13.2 | 5.9  | 6.0  |
| 先 進 国             | 373.1          | 392.0   | 406.8   | 24.7 | 5.1  | 3.8  |
| 新 興 国             | 910.5          | 967.2   | 1,033.8 | 9.1  | 6.2  | 6.9  |
| 中 国               | 576.0          | 604.8   | 635.0   | 5.1  | 5.0  | 5.0  |
| B R I C           | 698.9          | 738.8   | 784.7   | 8.0  | 5.7  | 6.2  |
| 中 東 ・ 北 ア フ リ カ   | 60.6           | 60.5    | 65.3    | 2.4  | △0.1 | 7.9  |
| 中 国 除 く 世 界       | 707.6          | 745.5   | 805.6   | 20.7 | 6.6  | 6.8  |

(注)見掛け消費量(生産＋輸入－輸出) (出所)世界鉄鋼協会(WSA)

同協会によると、2011年の見掛け消費は2010年比5.9%増の13億5,900万トンの見込みで、これまでの最高（2007年の12億2,200万トン）を更新した。2012年はこれをさらに6%上回り、初めて14億トンを上回る見通しとなっている。2012年の消費量について、同協会は「先進国は2007年を下回る水準に止まるが、新興国では消費が拡大する」とし、消費量全体に占める新興国の比率は2007年の61%に対して72%に上昇するとみている。中国は2011年が、政府による過剰生産抑制策の効果で、前年比5%増の6億5,000万トンとなったが、2012年もこうした傾向が続き、成長率は5%程度に止まるとしている。同協会は、鋼材消費の下振れにつながる今後の不安要因として、欧州の金融危機、中東の政情不安、日本の東日本大震災の3点を挙げている。 □